

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人 河原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
人間環境学部	心理学科	夜・通信		5	22	27	13		
	環境科学科	夜・通信			10	15	13		
看護学部	看護学科	夜・通信				145	145	13	
松山看護学部	看護学科	夜・通信				21	21	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人 河原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公開 (<http://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	弁護士	令和2年6月1日 ～ 令和4年5月31日	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
非常勤	愛媛県議会議員	令和2年6月1日 ～ 令和4年5月31日	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人 河原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全学の教学を統括する教学マネジメント委員会において、シラバスの様式を検討し、コマシラバス(各コマ毎に詳細化されたシラバス)として統一の様式を整えた。また、コマシラバス作成上の注意点を専任教員に対し伝えるため、説明会を実施している。非常勤講師には、留意点を記載した作成要領を送付し作成を依頼している。</p> <p>また、提出されたシラバスはカリキュラム責任者等、第三者により記載内容を確認する体制をとっている。</p> <p>今年度の主な記載項目は、下記の通りである。</p> <p>区分、科目コード、学年・期、科目名、単位数、授業形態、必修・選択、学習時間、前提とする科目、展開科目、関連資格、担当教員名、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの関係、カリキュラム全体の中でのこの科目の位置づけ、科目の目的、到達目標、科目の概要、科目のキーワード、授業の展開方法、オフィスアワー、履修判定指標、評価方法、教科書、参考文献、実験・実習・教材費</p> <p>また上記に加え、各コマ毎に以下の記載項目がある。</p> <p>主題、科目の中での位置付け、コマ主題細目、細目レベル、キーワード、コマの展開方法、国家試験との関連、復習・予習課題、教材・教具</p> <p>授業計画(シラバス)の公表時期は、4月の開講に合わせて行い、履修登録時に確認が行えるように配慮している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【人間環境学部・看護学部】

単位の認定については、試験内規を定め、「受験資格」において出席時数を明確にしている他、学部学科毎に教育課程および履修方法に関する規程において、成績評価基準を定めており、学生に配布する「履修の手引き」又は「学生便覧」に掲載している。また、コマシラバスにより“履修判定指標”が授業毎に定められており、その授業で修得すべき具体的内容を履修登録時から学生に対し明確に示している。

なお、コマシラバスについてはカリキュラム責任者等による第三者チェックが行われており、“履修判定指標”が定期試験などの評価対象となる内容と一致しているかを学生へアンケート調査を行っている。

【松山看護学部】

単位の認定については、「松山看護学部看護学科教育課程および履修方法に関する規程」に下記のとおり記載しており、学生に配布する学生便覧に掲載している。

(単位認定)

単位の認定は、平素の勉学状態、出席状態、試験・報告書および論文などの成績を総合的に判定して行う。

2 次の各号に該当する場合は、当該科目の単位認定は行わない。

- (1) すべての科目において、出席時数が所定の授業実施時間の3分の2に満たない場合。ただし、臨地実習科目は、出席時数が所定の実習時数の5分の4に満たない場合
- (2) 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合
- (3) レポート等を定められた期限までに提出しなかった場合

また全科目のコマシラバスに明記している評価方法および評価基準に基づき、科目担当教員は評価し単位認定しており、それらは教学委員会および教授会でも報告している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

評価点	合否等	評語	GP	評価基準
100～90点	合格	S	4.0	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点		A	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点		B	2.0	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点		C	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
59点以下	不合格	D	0	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
試験欠席		E	0	試験付受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄		F	0	出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	認定	N	-	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

$$GPA = \frac{(4.0 \times S \text{ の単位数}) + (3.0 \times A \text{ の単位数}) + (2.0 \times B \text{ の単位数}) + (1.0 \times C \text{ の単位数})}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページにて公開
(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【人間環境学部】

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、人間環境学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。

- ①個人・社会・自然が直面する課題に対して専門的な理解を深めると共に、学際的な柔軟性を有し、実践的な能力を有すること。
- ②グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力を有すること。
- ③企業・地域社会などのあらゆるコミュニティに寄与する組織的な活動能力を有すること。

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連について、シラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。

【看護学部看護学科】

看護学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は下記のとおりである。

看護の対象となる人々に対し直接的に質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成します。即ち、看護師、保健師の育成を行い、健康ニーズの増大に対し、多くの人々に共通する多様で質の高い看護が提供できる人材育成を行います。さらに、健康生活への支援により疾病予防・疾病の悪化予防・症状や症状改善・リハビリテーション看護・終末期看護などによって、社会貢献を目指します。また、これらの看護活動実践に必要な5つの能力を以って卒業要件とします。

- (1) 豊かな人間性を培い、ヒューマンケアの実践能力
- (2) 専門職業人として自立した意志と、高い倫理観
- (3) 専門分野に関心をもち、それにふさわしい実践能力
- (4) 多職種と連携して地域環境に根ざした社会貢献できる力
- (5) グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力

また、上記の5つの養成能力と各科目との関連についてシラバスにも記載することにより、学生に意識づけを行っている。

上記の方針のほか卒業要件に定める修得単位数を踏まえ、教授会で卒業の可否を判定する。

【松山看護学部看護学科】

看護の対象となる人々に対し直接的に質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成します。即ち、看護師、保健師の養成を行い、健康ニーズの増大に対し、多くの人々に共通する多様で質の高い看護が提供できる人材育成を行います。さらに、健康生活への支援により疾病予防・疾病の悪化予防・病状や症状改善・リハビリテーション看護・終末期看護などによって、社会貢献を目指します。また、これらの看護活動実践に必要な5つの能力を以って卒業要件とします。

1. 豊かな人間性を培い、ヒューマンケアの実践能力
2. 専門職業人として自立した意志と、高い倫理観
3. 専門分野に関心をもち、それにふさわしい実践能力
4. 多職種と連携して地域環境に根ざした社会貢献できる力
5. グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力

また、上記の5つの養成能力と各科目との関連についてコマシラバスにも記載することにより、学生に意識づけを行っている。

本学部は、開設4年目であるため、現時点では卒業の認定実績はまだないが、上記の方針のほか卒業要件に定める修得単位数を踏まえ、教授会で卒業の可否を判定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにて公開
(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人 河原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
財産目録	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
事業報告書	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
監事による監査報告(書)	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/self-evaluation.html)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間環境学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p> <p>(概要) 人間環境学部は、建学の精神としての「人間環境学」に基づいた教育を行っている。「人間環境学」とは、人間と環境とをそれぞれ一個の点のように考えるのではなく、また点として考えられた人間や環境をどう関係づけるのかという観点からでもなく、人間や環境を「人間環境」として、すでに相互に深く関係したものとして考えること、つまり、単に文化的な概念でもなく、単に科学実証でもない文理融合の教育研究を教育理念としている。特に今日の IT テクノロジーのあらゆる分野での急速で高度な展開は、文理融合の「人間環境学」の理念なくしては取り組めない現代の諸課題を数多く含んでいる。人間環境学部は、今日の「人間環境」的な諸課題を踏まえて、建学以来の「人間環境学」の実践性を活かし、テクノロジーの時代における「人間環境」のあり方に深く自立的に関わることでできる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p> <p>(概要) 人間環境学についての幅広い教養を身につけ、人間環境学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。 ①個人・社会・自然が直面する課題に対して専門的な理解を深めると共に、学際的な柔軟性を有し、実践的な能力を有すること。 ②グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力を有すること。 ③企業・地域社会などのあらゆるコミュニティに寄与する組織的な活動能力を有すること</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p> <p>(概要) 自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「人間環境学」を位置づけ、その基盤のもと、人間が生活する歴史・文化的背景と、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「人間環境学」の見地から、個人の社会の精神・心理の課題あるいは環境問題における課題を深く理解し、分析し、対応できる人材を育成する。</p> <p>心理学科 心理学科では、単に心理学という専門分野の知識を有した人材ではなく、自然・社会環境、歴史・文化環境の知識を有し、広い視野と柔軟な思考力を持って、現代社会に広く対処できる人材を育成する。中核となる心理学の科目は、基礎科目、5つの分野の発展科目、実習・演習科目から成っており、幅広く重層的にこれらの科目を履修することで、心理学全体の専門的知識と、データ解析や援助において心の事象を扱い深く理解する実践力を習得する。</p> <p>環境科学科 環境科学科では、自然・社会環境に関する専門知識と、精神環境と歴史・文化環境とに関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。中核となる自然・社会環境科目では、自然環境分野の生態系(動物)、生態系(植物)、物質循環の3領域に、社会環境をあわせた4領域の科目を用意し、自然環境分野と社会環境分野との双方の分野</p>

<p>の教養を得るに必要な単位数と、専攻する領域の科目を修得させることで、全体を見通すことができる教養と、特定領域について特化した体系的専門知識を修得させる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法:ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>人間環境学部では、人間と環境との関係に関する高度な知識や技術を習得しつつ、創造的に学問を深めることができ、主体的に物事に取り組む人を求める。</p> <p>人間環境学部には心理学科および環境科学科がある。各学科の入学者の受入れに関する方針は以下に示す。</p> <p>心理学科 心理学科では、人間と環境との関係に関する高度な知識を習得しつつ、創造性と主体性を持ち、心理学の知識を実社会で活かすことによって社会貢献する意欲を持つ者を求める。</p> <p>環境科学科 環境科学科では、文系・理系を問わず、自然環境と、その保全に配慮した社会に関心があり、環境保全に関する知識と技能を、持続可能な社会の実現に役立てる意欲を持つ者を求める。</p>
<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法:ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>看護学部は、対象となる人々が健康に生きることを支える看護、ならびに、より健康な地域社会の発展に貢献する看護を理念として掲げている。人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、人々のライフサイクルに応じた多様な健康ニーズに対応できる広い視野で、科学的・専門的な知識と技術に基づく判断力と探求心をもって質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成し、人々が健康に生きることを支援する。あわせて地域社会における保健・医療・福祉の連携と発展に貢献する。即ち、対象となる人々の健康に生きることを支える看護、及び、より健康な地域社会の発展に貢献する看護職者となる人材育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法:ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>看護の対象となる人々に対し直接的に質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成する。即ち、看護師、保健師、養護教諭の養成を行い、健康ニーズの増大に対し、多くの人々に共通する多様で質の高い看護が提供できる人材育成を行う。さらに、健康生活への支援により疾病予防・疾病の悪化予防・病状や症状改善・リハビリテーション看護・終末期看護などによって、社会貢献を目指す。また、これらの看護活動実践に必要な5つの能力を以って卒業要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性を培い、ヒューマンケアの実践能力 2. 専門職業人として自立した意志と、高い倫理観 3. 専門分野に関心をもち、それにふさわしい実践能力 4. 多職種と連携して地域環境に根ざした社会貢献できる力 5. グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>

<p>(概要)</p> <p>カリキュラムは、看護師国家試験受験資格を目的とする看護師課程が基本である。これに保健師国家試験受験資格を取得する保健師課程、養護教諭一種免許状を取得する養護教諭課程を開講している。また、本学部のカリキュラムの特色は、看護師課程の学生のキャリア形成の基礎力を強化するプログラムとして、学生が自身の志向するキャリアに基づいて自由に選択できる小児看護、がん看護、認知症看護、在宅・終末期看護 4 つの領域の選択強化プログラムを作成している。さらに文部科学省指定規則科目にはないが、グローバルな視野をもって国際社会に貢献できる国際看護学領域 6 科目を設けている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>生命とその尊厳を守り、あらゆる人々を最適な健康状態へと導く看護サービスを追求する豊かな人間愛と倫理観に富み、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与できる看護人材の育成をめざし、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康に関心があり、人と関わるのが好きな人 2. 他者への感謝と相手の気持ちを考え、尊重できる人 3. 自らの課題を発見し、解決に向け主体的に行動できる人 4. 看護職者を目指す熱意のある人 <p>上記 4 つの要件を満たすために、規則正しく健康的な生活習慣を身に付け、正課外もしくは学外のボランティア活動や地域諸活動への積極的な関心と社会貢献への意欲を持つ者を求める。</p>
<p>学部等名 松山看護学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)</p>
<p>(概要) 人間環境大学の目的に関する規定第 4 条</p> <p>松山看護学部は、対象となる人々が健康に生きることを支える看護、ならびに、より健康な地域社会の発展に貢献する看護を理念として掲げている。人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、人々のライフサイクルに応じた多様な健康ニーズに対応できる広い視野で、科学的・専門的な知識と技術に基づく判断力と探求心をもって質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成し、人々が健康に生きることを支援する。あわせて地域社会における保健・医療・福祉の連携と発展に貢献する。即ち、対象となる人々の健康に生きることを支える看護、及び、より健康な地域社会の発展に貢献する看護職者となる人材育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護の対象となる人々に対し直接的に質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成する。即ち、看護師、保健師、養護教諭の養成を行い、健康ニーズの増大に対し、多くの人々に共通する多様で質の高い看護が提供できる人材育成を行う。さらに、健康生活への支援により疾病予防・疾病の悪化予防・病状や症状改善・リハビリテーション看護・終末期看護などによって、社会貢献を目指す。また、これらの看護活動実践に必要な 5 つの能力を以って卒業要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性を培い、ヒューマンケアの実践能力 2. 専門職業人として自立した意志と、高い倫理観 3. 専門分野に関心をもち、それにふさわしい実践能力 4. 多職種と連携して地域環境に根ざした社会貢献できる力 5. グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>カリキュラムは、前述した教育目的・目標に則り、「豊かな人間性」「広い視野と倫理観」を持ち、科学的・専門的な「知識や技術」を確実に獲得し、それに基づく「判断力」を駆使し、看護の向上を求める「探究心」により努力を惜しまず、国際的に活躍できる高い看護実践能力を身につけた人材の育成を目指し編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師国家試験受験資格取得を目的とする看護師課程を基本とする 2. 保健師国家試験受験資格を取得する保健師課程を開講する 3. 看護師課程の学生のキャリア形成の基礎力を強化するプログラムとして、学生が自身の志向するキャリアに基づいて自由に選択できる小児看護、がん看護、認知症看護、在宅・終末期看護4つの領域の選択強化プログラムを作成する 4. グローバルな視野をもって国際社会に貢献できる国際看護学領域5科目を設ける
<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>生命とその尊厳を守り、あらゆる人々を最適な健康状態へと導く看護サービスを追求する豊かな人間愛と倫理観に富み、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与できる看護人材の育成をめざし、次のような学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康に関心があり、人と関わるのが好きな人 2. 他者への感謝と相手の気持ちを考え、尊重できる人 3. 自らの課題を発見し、解決に向け主体的に行動できる人 4. 看護職者を目指す熱意のある人 <p>上記4つの要件を満たすために、規則正しく健康的な生活習慣を身に付け、正課外もしくは学外のボランティア活動や地域諸活動への積極的な関心と社会貢献への意欲を持つ者を求めます。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
人間環境学部	—	18人	6人	11人	4人	0人	39人
看護学部	—	9人	9人	11人	8人	5人	42人
松山看護学部	—	11人	3人	5人	3人	3人	25人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		人					人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/data.html)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
人間環境学部では、下記のFDを実施している。 ①教員相互による授業見学会（後期実施） ②学生による授業評価アンケート（前後期実施） 看護学部では、下記のFDを実施している。 ①学内実習指導教員による実習における困難事例の対応について研修会（8月実施） ②学生による授業評価アンケート（前後期実施） ③心理カウンセラーによる「大学で起こりうるハラスメント」研修会（3月実施） 松山看護学部では、下記のFDを実施している。 ①外部講師による研修会 ②教員相互による授業見学会（前後期実施） ③学生による授業評価アンケート（前後期実施） ④加盟している四国地区教職員能力開発ネットワーク主催の研修に参加							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間環境学部	200人	213人	106.5%	800人	904人	113.0%	0人	0人
看護学部	95人	110人	115.8%	380人	413人	108.7%	0人	0人
松山看護	80人	89人	111.3%	320人	297人	92.8%	0人	0人
合計	375人	412人	109.8%	1500人	1614人	107.6%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間環境学部	126人 (100%)	10人 (8.0%)	95人 (75.4%)	21人 (16.6%)
看護学部	99人 (100%)	5人 (5.0%)	94人 (95.0%)	0人 (0%)
松山看護	50人 (100%)	3人 (6.0%)	46人 (92.0%)	1人 (2.0%)
合計	275人 (100%)	18人 (6.5%)	235人 (85.5%)	22人 (8.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全学の教学を統括する教学マネジメント委員会において、シラバスの様式を検討し、コマシラバス(各コマ毎に詳細化されたシラバス)として統一の様式を整えた。また、コマシラバス作成上の注意点を専任教員に対し伝えるため、説明会を実施している。非常勤講師には、留意点を記載した作成要領を送付し作成を依頼している。</p> <p>また、提出されたシラバスはカリキュラム責任者等、第三者により記載内容を確認する体制をとっている。</p> <p>今年度の主な記載項目は、下記の通りである。</p> <p>区分、科目コード、学年・期、科目名、単位数、授業形態、必修・選択、学習時間、前提とする科目、展開科目、関連資格、担当教員名、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの関係、カリキュラム全体の中でのこの科目の位置づけ、科目の目的、到達目標、科目の概要、科目のキーワード、授業の展開方法、オフィスアワー、履修判定指標、評価方法、教科書、参考文献、実験・実習・教材費</p> <p>また上記に加え、各コマ毎に以下の記載項目がある。</p> <p>主題、科目の中での位置付け、コマ主題細目、細目レベル、キーワード、コマの展開方法、国家試験との関連、復習・予習課題、教材・教具</p> <p>授業計画(シラバス)の公表時期は、4月の開講に合わせて行い、履修登録時に確認が行えるように配慮している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
コマシラバスにより“履修判定指標”が授業毎に定められており、その授業で修得すべき具体的内容を履修登録時から学生に対し明確に示している。				
なお、コマシラバスについてはカリキュラム責任者等による第三者チェックが行われており、“履修判定指標”が定期試験などの評価対象となる内容と一致しているかを学生へアンケート調査を行っている。				
また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連について、シラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。				
上記の方針のほか、卒業要件に定める修得単位数を踏まえ、教授会で卒業の可否を判定する。				
学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間環境学部	心理学科	126 単位	有・無	46 単位
	環境科学科	126 単位	有・無	46 単位
看護学部	看護学科	128 単位	有・無	45 単位
松山看護	看護学科	128 単位	有・無	45 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人間環境学部	心理学科	700,000 円	200,000 円	380,000 円	
	環境科学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
看護学部	看護学科	950,000 円	200,000 円	645,000 円	
松山看護学部	看護学部	950,000 円	250,000 円	550,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境学部】

- ・一人一人の顔が見える大学
少人数教育を中心にして、学生一人ひとりにあったカリキュラムが選択できます。
- ・地域に根ざした大学
岡崎商工会議所と提携し、地元企業との関係を重視しています。
- ・基礎ゼミ（1年次）
10～15名程度のクラス編成で、大学で必要とするスキルの養成をおこないます。レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など具体的に指導しています。
- ・メンター
1年次は基礎ゼミ担当の教員がメンターとして学生の履修指導や生活面でのサポートをしています。2年次はコース担当教員がメンターとなります。
- ・専門ゼミナール
3年生では、卒業論文・卒業研究にむけての準備作業がはじまります。4年生は、3年間で学んだことを卒業論文や卒業研究としてまとめていきます。
- ・新入生ウェルカムキャンプ
入学式のあと、合宿をして先生や先輩からアドバイスを受けながらコースについて具体的に4年間の履修計画を作成します。

【看護学部】

- ・資格取得への支援
国家試験 100%の合格をめざして、専門講師が常駐する「国家試験対策室」を設置するほか、集中講義、模擬試験などで万全の体制で試験をサポートします。
また、「看護師資格+α」のスキルを身につける「強化プログラム」制度（3年次選択）を用意するほか、「保健師」「養護教諭一種」の資格取得もめざせるコース（2年次選択）も用意しています。
- ・基礎ゼミナール
1年次前期に開講される「基礎ゼミナール」では、これから大学で勉強していく上で必要となる基礎的な技能や知的探究心を鍛錬することを目的にしています。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育成します。
- ・学習・生活をサポートする「アドバイザー制度」
学生が有意義で充実した大学生活を送れるよう、専任教員による「アドバイザー制度」を実施しています。学習・進路面はもちろん学生生活の相談など4年間を通して手厚い支援を受けることができます。学生はアドバイザー教員が示したオフィスアワーを利用して気軽に相談をすることができます。

【松山看護学部】

- ・資格取得への支援
国家試験 100%の合格をめざして、「国家試験対策室」を設置するほか、集中講義、模擬試験などで万全の体制を組織し国家試験をサポートします。
また、「看護師資格+α」のスキルを身につける「4つの選択強化プログラム」制度（小児看護、がん看護、認知症看護、在宅終末期看護）や、「保健師」の資格取得を目指せるコースも用意しています。
- ・基礎ゼミナール
1年次前期に開講される「基礎ゼミナール」は、これから大学で勉強していく上において必要なアカデミックスキルの修得や知的探究心を鍛錬することを目的にしています。
また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、ポートフォリオを作成することで、キャリア・ストーリーを描くことができます。

- ・学習・生活をサポートする「メンター制度」
 学生が有意義で充実した大学生活を送れるよう、専任教員による「メンター制度」を実施しています。学習・進路面はもちろん、学生生活の相談など4年間を通して手厚い支援を受けることができます。メンター教員以外にも、教員が示したオフィスアワーを利用して気軽に相談をすることができます

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境学部】

- ・就職・進路について
 就職・進路相談室がサポートします。就職率 99.0% (令和3年3月卒業生)
- ・人間力を備えた企業人を育成します
 就職相談室では、全員と個別就職面談を実施するなど、「個」を重視したサポート体制をとっています。
- ・個別指導を行います
 人間環境大学では、一年生の段階から徹底的な個別指導によって学生本人の希望・適性に合った就職を支援しています。
- ・激変する社会状況に対応する為、学生のみならず保護者の方々にも就職活動につきまして、ご理解とご協力を得る為、キャリア通信(就活情報紙)を定期的に発行・送付し、学生と保護者の方々の不安の軽減に努めさせて頂いています。

【看護学部】

- ・長期視野で進路を見つめ、専門職者としての心構えから適性を身に付けるためキャリアデザイン支援室を設置し、看護業界に精通した適任者が常駐し支援している。
 さらに看護職として自己実現に向けて意識を高めるため、入学間もない1年次前期より「医療キャリアの基礎」として単位化されたキャリアデザイン科目があり、キャリア形成の在り方と医療専門職業人としてのマナーについて学ぶほか、具体的な実践看護の活動を通じて主体的に自身のキャリアを設計することができる。

【松山看護学部】

- ・就職支援への取り組み
 1年次より、「医療キャリアの基礎」として単位化されたキャリアデザインに取り組みます。ここでは、キャリア形成の在り方や医療専門職を経験した教員からそれぞれの専門領域について学ぶほか、具体的な実践看護の活動を通じ、主体的にキャリア設計を描いていきます。
 また、インターンシップへの参加推奨や、就職先の相談、就職後の支援など、きめ細やかなフォロー体制の整備を行って参ります。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境学部】

- ・学生相談
 1. 教員による学生生活に対する相談 大学生活で困ったこと、友人関係などで問題が発生したときには、学生相談室を利用することができます。
 2. 専門のカウンセラーによる相談 臨床心理士によるカウンセリングを受けることもできます。カウンセラーの相談は月曜日 から金曜日の午後となります。

【看護学部】

- ・学生相談
 大学生活、友人関係などで困ったり悩んだりしたときには、学生相談担当の教員が相談に対応している。また、ハラスメント問題専用窓口を設け、対応している。さらにアドバイザー制による個別対応により、きめ細かくフォローしている。
- ・健康管理

年に1回健康診断を実施し、学生の健康チェックを行うとともに、病院実習に備え、入学時に感染症抗体検査を実施し、基準に満たない場合は、予防接種の指導を行っている。さらに、学校保健として日本看護学校協議会共済会の総合補償制度に全員が加入し、実習先や学校管理下（登下校を含む）での傷害事故、賠償事故および臨地実習での感染事故にも対応できるよう対応している。これらを通して、医療に関わる専門職として主体的に自身の健康管理ができることを目指している。また保健室では、学生が健康を維持・増進できるよう必要な知識を提供し、定期健康診断後に校医、保健師による事後指導を実施し、病気の早期発見、早期治療など健康指導を行っている。

【松山看護学部】

・学生相談

大学生活で困ったこと、身心の悩み、将来に不安があるなど、相談したいときには、学生相談担当の教員や臨床心理士が対応しています。また、ハラスメント問題専用の窓口を設け、様々な問題に対応できるようにしています。

・健康管理

年に1回健康診断を実施し学生の健康チェックを行うことで、病気の早期発見、早期治療ができるよう配慮しています。なおかつ医療に関わる専門職として、自発的に自身の健康管理ができることを目指しています。1年次の健康診断では、病院実習に備えて感染症抗体検査を実施し、抗体値が基準に満たない場合には予防接種の指導を行い、感染症予防に努めています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法ホームページにて公開(<https://www.uhe.ac.jp/guide/achievements-fe.html>)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F123310106513
学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人 河原学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		159人	145人	161人
内 訳	第Ⅰ区分	82人	79人	
	第Ⅱ区分	45人	39人	
	第Ⅲ区分	32人	27人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				161人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	14人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	16人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。